

第8回 吹田市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時：平成30年2月28日（水） 19:00～21:00
- 2 場 所：吹田市役所 高層棟4階 特別会議室
- 3 出席者：別添「出席状況一覧」のとおり
- 4 傍聴人：なし
- 5 配付資料：
 - 資料36 基本計画（素案）「IV. 基本計画推進のために」に係る審議会専門部会における主な御意見・議論等（平成30年2月28日時点）
 - 資料37 吹田市第4次総合計画 基本計画（素案）※追加諮問分※（平成30年2月28日修正版）
 - 資料38 吹田市第4次総合計画「財政運営の基本方針」の検討資料（案）（平成30年2月28日修正版）
 - 資料39 第4次総合計画 基本計画（素案）に対する特別委員会からの御意見
 - 資料40 基本計画（素案）「IV. 基本計画推進のために」に対する市民からの御意見
 - 資料41 吹田市第4次総合計画 基本構想（素案）・基本計画（素案）
【平成30年2月28日時点】
 - 資料42 基本構想（素案）及び基本計画（素案）全体の検討の視点
 - 参考資料 総合計画審議会 提出資料一覧（基本計画（素案）諮問以降）

6 議事要旨

(1) 第4次総合計画 基本計画（素案）について

【「IV. 基本計画推進のために」の検討】

事務局より、基本計画（素案）の検討について、資料36から資料40を用いて説明があった。

【審議内容】

≪資料37 6、7ページ「4. 財政運営の基本方針」について≫

A委員： 資料41の13ページ図表Ⅲ－1では、将来人口は平成40年には39万人になると書かれている。一方、資料37の7ページ、図表Ⅳ－3の収支見通しは、歳入歳出ともに平成34年度以降動きがないように見える。人が増えるとゴミの量や学校の教室数が増えるなどして、歳出も増えるのではないか。

事務局： 項目ごとに見ていただくと、人口の増加につれて、子育て支援や障がい者、高齢者福祉などを含む扶助費は一定増えている。歳入歳出の総額、全体の枠組みは大きく変わることは想定されない中で、シミュレーションでは、それぞれの事業費については、性質ごとに過去の増減などを踏まえて算出している。

会 長： たとえば、人口が一定でも世代別の構成が変わることでも変わる。それを純粹に計算式だけにあてはめていくと、推計自体はこういうものだと思う。

財政については専門的な用語も多く、検討資料では例を出して、できるだけ平易な書き方にしているが、この程度が正確さを保ったままわかりやすい表現にする限界だと思う。

B委員： 資料37の7ページ、図表Ⅳ-3の歳出の内訳をみると、扶助費は年々増えている。人口の増加は行政サービスの費用に影響するので、その費用が増えていることを鑑みると、人口変動の影響が見てとれる。一方で、計画的な借入と返済により、公債費が減少するなどしており、限りある財源の中で歳入と歳出の均衡が図られている。

《資料37 2～5ページ「1. 基本計画の進行管理」～「3. 取組を進めるための3つの視点」について》

C委員： 資料37の2ページ、図表Ⅳ-1は、矢印を90度回転させた方が良い。Plan（計画）から始まるように示す必要がある。

A委員： 資料37の8ページ以降の（参考）【附属資料】「地域の特性」（以下、【附属資料】とする。）について、6つのブロックというのは第3次総合計画からの流れか。たとえば、千里山竹園2丁目は、地域としては千里新田地区だが、小学校区は桃山台小学校区となっている所もある。以前に校区変更があったため、お年寄りは千里新田地区の行事に、子どもは桃山台小学校区の行事に参加するといった状況となっており、住んでいる人の中で「地域」の考え方が異なる可能性がある。最も恐れているのは災害時で、もしも、桃山台小学校に避難した際、「千里山竹園に住んでいるので、千里新田小学校に行きなさい」と言われたら、自分たちがどの地域に所属しているのかと考える。【附属資料】で示す6つのブロックに、一律に分けてしまっているのか。

事務局： 第3次総合計画の地域別計画では、市域を6つのブロックに分けていた。しかし、今のお話のように、分野によって地域の分け方が異なり、計画として一概に示すことは難しいため、第4次総合計画では、地域の特性を生かしたまちづくりを進めていくために、取組ごとにふさわしい圏域設定をする、という考え方を計画本文にお示したうえで、参考情報となる地域の特性を6つのブロックで整理し、【附属資料】という形でまとめている。そのことが、わかりにくい書き方になっているのかもしれない。たとえば、防災では、災害時に市民の方にどう動いていただくか、ということをもれなく周知することが必要である。それを効率的、効果的に行える地域の分け方を、個別計画で考える必要がある、という考え方を地域の特性を生かすまちづくりに示している。一方で、地域の特性をまとめるうえでは、第3次総合計画で分けた6つのブロックが、一定馴染んでいるであろうという考え方で、市民のみなさまと情報共有するという観点で【附属資料】をまとめている。

また、市民意識調査などの統計データについても、6つのブロックで集計されているものが多く、それらを掲載している。

A委員： 今後10年で人口が増えた時に、子どもの増加による校区変更は、想定していないのか。

事務局： 学校ごとの規模が大きく異なっており、課題としてあるが、そのような時は行政だけでなく、住民の方々と話をしながら取り組んでいくことになる。

会長： 「地域の実情に応じた圏域設定を検討する必要がある」という考え方があり、参考として、6つの地域で地域の特性を示しているものをそのまま理解してもらうことは難しい。小中学校区単位などのいろいろなレベルで取組を進めていることが、この例でどこまで理解できるだろうか。行政として、今まで6つのブロックで把握してきたデータがある、ということがわかるようにするなど、かなり工夫して書いていただく必要がある。あくまで6ブロックはたくさんある中の一例であるという、書き方をすべき。

D委員： 地域の特性というものは何を示そうとしているのか。施設、組織、人口、何を分析しようとしているのか。分析したものをどう展開しようとしているのか、というところがよくわからない。漠然としている。

会長： 何を明らかにするための【附属資料】か、もう少し明確になればと思う。

事務局： 地域の特性とは、地域のさまざまな側面における状況や特徴から捉えるべきものであり、取組ごとに柔軟に把握・分析する必要がある。

総合計画本文では、地域の特性を生かしたまちづくりを進めるため、個々の取組を進めていくうえでは、地域の実情に応じた圏域設定を検討する必要があることを示している。その前提として、歴史的背景や資源、人口推移などの各分野で共通して把握しておくべき基礎的な情報を、これまでの経過などから6つのブロックに地域を分けて、【附属資料】としてまとめている。

会長： そういうことであれば、資料37の8ページ、地域の分け方の例（小学校区及び中学校区）まで示さずともよいと思うが、どうか。必要なのは、資料37の9ページの地域の分け方の例（6つのブロック）であろう。先程と逆のことを言うが、総合計画においては、これまでの行政データや施策の単位として使ってきた経緯から、6つのブロックに焦点をあて、把握をしていく必要がある、などと示し、人口構成や詳細なデータなどで比較をするといった形の方が、何のために【附属資料】で地域の特性を示しているのかが、はっきりすると思う。参考として、ではなく、総合計画を考えるにあたって必要な地域の特性の把握の仕方である、とすれば、意味がある。検討いただければ。

(2) 基本構想（素案）及び基本計画（素案）全体の検討

事務局より、基本計画（素案）の検討について、資料41及び資料42を用いて、説明

があった。

【審議内容】

- 会 長： 細かな内容については、基本計画（素案）の審議の中で十分に議論し固めてきたところであるが、全体として見た場合にどうか。基本計画（素案）の内容について、基本構想（素案）の「将来像」や「施策の大綱」で十分に包含できているか、分かりやすく示しているか。
- B委員： 資料 41 の 7 ページ、図表Ⅱ－2 は、吹田市は住む場所であって、働く場所は市外が多く、昼間人口が減っている、という 1 日の昼夜間における通勤通学の流入を説明しているものと思うが、これは文章のどの部分に該当するのか。また、一般的に転入・転出といった社会的流入を示すことの方が多いが、あえて昼夜間の流入を示されている。それを行政がどう受け止めているのか、これからどう読み取ってほしいのか教えていただきたい。
- 事務局： 吹田市は流出のほうが多く、ベッドタウンのイメージが強いが、他市と比較しても、昼間人口はそれほど減らない。大学や企業が多く、通勤や通学による流入も多いことを文章で示している。
- B委員： そうであれば、他市と比較し、昼夜間の乖離が少ないことを図表で示した方が良いのでは。比較がないため、流出超過がシンプルに表れている。
- 事務局： 基礎データ集で北摂他市と比較しており、夜間人口に対する昼間人口の割合は高い水準にある。基本構想（素案）にデータまで載せるのは難しいと思っているが、資料 41 の 6 ページに「本市の昼間人口は夜間人口と大きく差がありません」と示しており、「近隣他市と比較しても、他市ほど大きな差がない」と表現するなど、文章の追加を検討したい。
- 会 長： 北摂他市との比較表を掲載したとして、読み取ってもらいたいことは何か。たとえば、「住みやすい環境でみんなに選ばれてきたまちである」ということを書くのであれば、流出超過でも問題はない。資料 41 の 6 ページの書き方を「流入もあるし、流出もあるダイナミックな都市」とするのもひとつの案だと思う。意図が伝わりやすくなるような工夫が必要。
- B委員： 資料 41 の 13 ページの「2. 将来人口」において、今後も千里ニュータウンの建替えや新たな住宅建設による人口増加の見込みを踏まえて、図表Ⅲ－1、Ⅲ－2 が掲載されていると思う。吹田市の人口増加は、社会的な流入によるものだと文章から読み取れるため、社会的な流入の図があっても良い。その図や先程の昼夜間人口と比較して、何が言いたいのか。
- E委員： 図表の番号を文章内で示していないので、図表の印象が独り歩きしているのでは。文中で図表との対応関係を示せば、今の問題は解決すると思う。
- 会 長： 「将来像」や「施策の大綱」についてはいかがか。資料 42 も併せてご覧いただきたい。これまでの審議を踏まえる形で、市が将来像に盛り込む必要があると考

える視点も示されており、議論のポイントにもなるものと思うが、そういった所も含めて何かご意見はないか。

D委員： 少し具体的なことになるが、資料 41 の 24 ページ「大綱 1 政策 2 市民自治によるまちづくり」として、「地域コミュニティの活性化」や「地域の担い手づくり」などがいつも出てくるが、以前から「まちづくりは人づくりから」と言われているにもかかわらず、リーダー人材の育成、というのがあまり大きくとらえられていない。超高齢化の波が押し寄せていて、役員のなり手がいなかったり、自治会の加入率が大きく落ちていたり、人のつながりが希薄化してきていることが地域の課題となっている。立て直していくためには、地域の中で、リーダーシップを取れる人材の育成が最も大事だが、それを行政としてどのように支援していくのか具体的に明確に出ていない。地域の自主的なボランティア活動に任せていくのは、今の時代にそぐわない。

事務局： 資料 41 の 24 ページ「大綱 1 政策 2 市民自治によるまちづくり」の「現状と課題」の中でも、「さまざまな世代の知識や経験を生かした地域コミュニティの活性化や地域活動の担い手の育成が進む取組の支援が必要である」と書かせていただいております、各施策で推進していかなければならないと考えている。資料 42 の 2-4 「市民ニーズへの対応、市民自治」でも示しているが、市民力や地域力が果たす役割は大きく、その取組をどういった形で行政が支援していけるのかは、重要な視点と認識している。

会 長： 総合計画の方向性に沿って、個別の計画を作成することを考えると、資料 41 の 12 ページ、将来像の部分で、「重要」ではなく「必要」として拘束力を持たすなどにより、意味を強めるのも一つの手だと思う。

B委員： 資料 41 の 12 ページの段落ごとのつながりはどうなっているのか。将来像は全体として何を言いたいのか。例えば、第 1 段落は過去の状況、第 2 段落は現状、第 3 段落は将来の人口動態、第 4 及び第 5 段落はこうあってほしいという、希望を書いている印象を受ける。将来像は誰に対して何を言いたいのか。どこに軸足を置いて文章を書いているのか、もう少し整理する必要があると思う。

事務局： 段落ごとの理解は読み取っていただいたとおりである。将来像を書くにあたって、これまでの経過や本市がどのような状況にあり、どんな課題を持っているかを各段落で書いており、最終段落で総合力の高いまちづくりを将来世代へつなぐ必要がある、というまとめをしている。また、まちづくりの目標、将来像をまとめる観点から、キャッチフレーズをつけたいと考えている。資料 41 の 12 ページを最初からつなげて最終段落でまとめ、キャッチフレーズで集約するというお示し方をしている。

会 長： 最後から 2 番目の段落は、「重要です」ではなく、もう少し踏み込んで、「めざします」としてはどうか。

また、キャッチフレーズについては、冒頭の審議会の場で、頭でっかちにならずに考えながらいいものがあれば、提案していただきたいということで進めさせていただいた。以前、公募するなどの案もあったと思うが、私の提案としては、責任を持って審議会で審議を進めてきたので、これまでの議論を踏まえてまとめたいと思っている。審議会での議論を踏まえて、事務局に提案いただいて、審議会の場で決めるということにしたいのだが、いかがか。

委員一同：（異議なしの声）

会 長： 事務局から案を出していただいて、審議する中でより適切なものがあれば審議会の場で考えればいい。それでも決まらなければ、キャッチフレーズをなしとすることも可能性としてはある。

事務局： 市から改めて盛り込むべき視点は、基本構想（素案）と基本計画（素案）の内容に、齟齬がないかを確認する中で提案させていただいている。資料 42 で、何か欠けているところがあれば教えていただき、それらのご意見を踏まえてご提案させていただきたい。

D委員： 現在、各地区でタウンミーティングが行われており、市長が吹田の現状や強みを説明してくれた。全国、大阪府内と比べても吹田市の実情は、自慢できる内容になっている。タウンミーティングの資料は参考になるので、是非活用されたら良い。

会 長： 客観的にこれまで市のいろいろなデータを見てきたと思う。強みは伸ばして弱みは克服していく、めざすべき高みがあれば、方向性が見える。抽象的な言葉であっても吹田らしさがにじみ出るものになれば良いと思う。ご検討いただきたい。

F委員： わかりやすさという観点から、資料 41 の 23 ページ以降の施策指標について、目標年度に「H39」とあるが、元号が変わるので、いつを目標にしているのかも含め、分かりやすい表記を考える必要がある。

事務局： 会長からも同様の指摘をいただいており、いただいたご意見も踏まえてしっかりと考えていきたい。

タウンミーティングで市長は市民力、地域力が大事であり、地域で支える人をお支えしていなければならぬとして、温かみのあるまちづくりをめざして発言しているので、そのようなことも踏まえ、キャッチフレーズを提案したい。

会 長： それでは、本日の審議はこれで終了する。

《事務連絡》

事務局： 次回は、3月30日（金）午後7時から、特別会議室で開催予定である。

出席状況一覧

第8回 吹田市総合計画審議会 平成30年(2018年)2月28日(水) 午後7時 開催

(選出区分毎の五十音順・敬称略)

| No. | 氏名 | 選出区分 | 略歴 | 出欠 |
|---------|--------|------------------|------------------------|-----|
| 1 | 足立 泰美 | 学識経験者 1号 | 甲南大学 経済学部 准教授 | ○ |
| 2 | 井元 真澄 | 学識経験者 1号 | 梅花女子大学 心理こども学部 教授 | ○ |
| 3 | 尾崎 雅彦 | 学識経験者 1号 | 大和大学 政治経済学部 教授 | ○ |
| 4 | 加賀 有津子 | 学識経験者 1号 | 大阪大学 大学院 工学研究科 教授 | ○ |
| 5 | 岸本 みさ子 | 学識経験者 1号 | 千里金蘭大学 生活科学部 講師 | × |
| 6 | 北村 亘 | 学識経験者 1号 | 大阪大学 大学院 法学研究科 教授 | ○ |
| 7 | 島 善信 | 学識経験者 1号 | 大阪教育大学 教職教育研究センター 特任教授 | ○ |
| 8 | 高橋 智幸 | 学識経験者 1号 | 関西大学 社会安全学部 教授 | × |
| 9 | 岡本 智子 | 市民 2号 | 公募市民 | ○ |
| 10 | 林 享佑 | 市民 2号 | 公募市民 | ○ |
| 11 | 水木 千代美 | 市民 2号 | 公募市民 | × |
| 12 | 横山 竜大 | 市民 2号 | 公募市民 | ○ |
| 13 | 亀谷 拓治 | 市内の公共的団体等の代表者 3号 | 豊二地区連合自治会 会長 | × |
| 14 | 下谷 明伸 | 市内の公共的団体等の代表者 3号 | 吹田市PTA協議会 会長 | ○ |
| 15 | 寺西 信昭 | 市内の公共的団体等の代表者 3号 | アジェンダ21すいた 会員 | ○ |
| 16 | 南雲 稔子 | 市内の公共的団体等の代表者 3号 | 吹田市社会体育団体連絡会 副会長 | × |
| 17 | 堀田 稔 | 市内の公共的団体等の代表者 3号 | 吹田商工会議所 副会頭 | × |
| 18 | 御前 治 | 市内の公共的団体等の代表者 3号 | 一般社団法人 吹田市医師会 副会長 | × |
| 19 | 由佐 満雄 | 市内の公共的団体等の代表者 3号 | 社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 会長 | ○ |
| 20 | 本屋 和宏 | 関係行政機関の職員 4号 | 大阪府政策企画部企画室 室長 | × |
| 出席委員 合計 | | | | 12名 |

※選出区分の号は、吹田市総合計画審議会規則第3条第2号の各号による。

吹田市 出席者

| | |
|-----|--------------------------|
| 事務局 | 川本理事(総合計画担当)、岡本企画財政室参事 |
| | 霜竹主査、船越主査、中嶋主査、松田主任、桑野係員 |
| | 委託業者 |